

プレスリリース

2024年5月13日
国境なき医師団 (MSF)

スーダン：北ダルフールの空爆で小児病院の子ども患者 2 人死亡——病院は閉鎖に

スーダン北ダルフール州の州都エル・ファシールで 5 月 11 日の夕方、国境なき医師団 (MSF) が支援するバビカー・ナハル小児科病院からわずか 55 メートルの地点に、スーダン軍 (SAF) の空爆による爆弾が着弾した。これにより病院の集中治療室 (ICU) の屋根が崩落し、患者の 2 人の子どもと、少なくとも 1 人の介護者が死亡した。現在、病院は閉鎖を余儀なくされている。MSF は、すべての紛争当事者に対し、国際人道法とともに、約 1 年前にアラブ連盟で採択された「ジッダ宣言」に基づき、民間人と医療施設の保護を徹底するよう緊急に要請する。

被害を受けたのは数少ない小児専門病院

バビカー・ナハル小児科病院は、昨年 4 月にスーダンで紛争が始まって以来、数少ない小児専門の病院のひとつとして地域で機能。他の多くの医療施設が閉鎖を余儀なくされたため、ダルフール全域から患者を受け入れていた。

事件に先立つ 5 月 10 日、北ダルフールでは SAF 合同軍と準軍事組織「即応支援部隊 (RSF)」の間で激しい戦闘があった。その結果 160 人の負傷者 (31 人の女性と 19 人の子どもを含む) が、MSF が支援するエル・ファシール南病院に運び込まれた。負傷者のうち 25 人は到着時に重体であり、その後死亡した。

11 日の戦闘はバビカー・ナハル病院の近くで発生したため、院内のほとんどの患者が逃げ出し、その多くがエル・ファシール南病院に向かった。バビカー・ナハル病院で治療を受けていた 115 人の子どもたちのうち、空爆があった時刻に病院に残っていたのは 10 人だった。

ICU にいた「命を救えたはず」の子どもたち

MSF の緊急対応責任者であるミシェル・オリビエ・ラシャリテは、声明で次のように述べた。「スーダン軍による空爆に巻き込まれ、小児病院の ICU で治療を受けていた子ども 2 人と介護者 1 人が死亡しました。この病院では 115 人の子どもたちが治療を受けていました。

すでにスーダンでは、紛争のために稼働する医療施設はあまりにも少なかったのです。もともとあった小児科病院は、紛争が始まったときに略奪を受けたため、患者の子どもたちは、昨年 5 月と 6 月に MSF が修復・拡張した小さな診療所に避難させられました。小さな診療所を病院として機能するよ

うに改良するのは、特に紛争が活発化している最中には容易なことではありませんが、それでもダルフール地方に残る数少ない小児病院のひとつとなりました。

ダルフールの他の地域では医療施設が不足していたため、幅広い地域から患者を受け入れました。エル・ファシルと近隣の国内最大の避難民キャンプであるザムザム・キャンプの壊滅的な栄養不良の危機に対応するため、対応を拡大しようとしていた矢先のことでした。

事件のあった当時、病院に入院していた 115 人の子どもたちは、マalaria、肺炎、下痢、栄養失調などの治療を受けていました。現在、多くの子どもたちはまったく治療を受けていません。空爆の犠牲になった子どもたちは、ICU で危篤状態にありましたが、命は救えたはずで、このようなことは二度と起こしてはなりません。

MSF は、紛争当事者に対し、病院や保健施設が紛争の標的となったり、巻き込まれたりしてはならないことをはっきりと示し、民間人の保護を徹底するよう強く求めます」

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X(旧ツイッター)アカウント：@MSFJ_Press